熱 海 新 聞　　平成２２年１月３１日

旧日向別邸
５周年講演会

色と地域性にこだわり

建築史家 斉藤さん　タウトのデザイン語る

国の重要文化財「旧日向別邸」＝熱海市春日町＝の公開5周年を記念した特別講演会が28日、同市昭和町の起雲閣で開かれた。市内外から約60人が集まり、建築史家の斉藤理さんによる「色彩から読み解く タウトの魅力」と題した講演に耳を傾けた。

ドイツ出身の建築家ブルーノ・タウトが設計した地下室のある同邸の維持・保存活動に取り組む「旧日向別邸保存会」（中井正勝会長）が主催した。講師の斉藤さんは東京大大学院で建築学を専攻し、同大研究員、東京理科大、早稲田大講師などを経て、現在上智大、慶応義塾大の講師や、東京都観光まちづくりアドバイザーを務める。２００３年に同邸の保存活動を始めたメンバーの一人でもある。

講師を務めた斉藤さん

斉藤さんはタウトが手掛けた建築物を紹介しながら、タウトが色にこだわった建築家として知られることや、こだわりの背景について説明。「タウトが生きた表現主義の時代は、新しい変化を起こそうという動きが盛んで、建築家がそれぞれ、新しい建築を試みた」などと語った。また「タウトは地域の文化性や伝統文化と新しいデザインを結び付けた」とし、「地域の特色をどう生かすか―という今、叫ばれているテーマをタウトは１９３０年代に考えていた」とした。

この日は講演に先立ち、「タウトの日記」の朗読も行われた。熱海朗読会「雲」の宇田川本子代表が同著の中から「永遠なるもの―桂離宮」を朗読し、聴衆を引き付けた。

旧日向別邸は実業家日向利兵衛の別荘の離れとして１９３６（昭和11）年に建てられた。その地下室は日本に現存する唯一のタウト設計の建築物。２００４（平成16）年に市の所有となり、翌秋から土・日曜日と祝日に予約制で一般公開している。

り、元気になる。生きる力が湧いてくる」などと話し、日ごろの努力をたたえた。また、来賓を代表し村上尚徳・文部科学省教科調査官が祝辞を述べた。

続いて児童一人一人が舞台に上がり、表彰状を受け取った。

入賞・入選作品は2月16日まで、同美術館円形ホールに展示される。